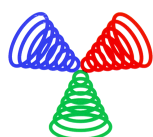


平成19年度事業報告



財団法人 横浜市芸術文化振興財団

目 次

平成19年度事業報告総括	2
平成19年度事業報告概要	
1. 平成19年度の事業展開について	6
2. 機能・施設別 平成19年度事業報告総括	
〔経営戦略〕	
経営企画・業務管理・広報情報	13
〔事業戦略〕	
支援協働・事業開発	14
〔施設戦略〕	
横浜美術館	15
横浜みなとみらいホール	16
横浜能楽堂	17
横浜にぎわい座	18
横浜赤レンガ倉庫1号館	19
大佛次郎記念館	20
横浜市民ギャラリー	21
横浜市民ギャラリーあざみ野	22
旭区民文化センター「サンハート」	23
磯子区民文化センター「杉田劇場」	24
吉野町市民プラザ	25
岩間市民プラザ	26

平成19年度 事業報告総括

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

平成19年度は、今後の財団の方向を見据えた機能の強化を図り、文化芸術創造都市・横浜の推進や開港150周年に向けた準備を着実に進める年となりました。

財団の長期ビジョン「財団の今後のあり方」に基づいた、「財団中期経営ビジョン～クリエイティブ・シティ・アーツプラン2010」の2年目として、「中期経営ビジョン」の「7つの取り組み」（横浜独自の芸術文化事業の発信、中間支援機能の充実、政策提案・政策支援・調査研究機能の充実、情報提供機能の充実、多様な人材の育成、コスト節減と必要財源の確保、経営戦略に基づく財団経営）の中から、特に4つの項目を重点的に取り組みました。

1 横浜独自の芸術文化事業の発信

創造的な質の高い芸術文化事業の企画・実施および横浜オリジナルの芸術文化を発信し、横浜の都市としての魅力と個性を高めました。また、創造の作り手や受け手である創造の担い手づくりに投資するとともに、それらを支える拠点文化施設の効率的・効果的な運営を行うため、市民ニーズ等の視点を取り入れ、拠点機能を充実させました。

主な取り組み

- **横浜からの新たな創造・発信**
〈ヨコハマ・パフォーミングアーツ・コンプレックス〉
世界最先端の舞台芸術を市民に紹介したほか、ダンスや演劇の公演に、ワークショップ、トークイベントなどを組み合わせ、バラエティに富んだ芸術を展開し、横浜から発信する新しいフェスティバルの開催に向けたモデル事業となりました。また市内外の文化機関・団体等とのネットワーク形成にもつながりました。
- **アーティストの創造活動を支援**
〈創造活動支援事業（横浜美術館）〉
創造活動の場を提供するだけでなく、創造プロセスを重視し、レジデンスや展示の場において、作家が市民とのコミュニケーションの中から創ることを支援しました。
- **若手芸術家を世界へ発信**
〈横浜オペラ未来プロジェクト2007
（横浜みなとみらいホール）〉
若い芸術家が横浜に集い、横浜を拠点に芸術創造活動を行い、その成果を発信しました。世界的レベルの指導体制の下、プロジェクト参加者からイタリアのトレヴィエーゾ歌劇場のオーディションに1名を派遣しました。
- **新たな「創造界限」の運営**
〈創造空間9001オープン〉
文化芸術創造都市・横浜の実現に向けた「創造界限」形成の一つとして、旧東横線桜木町駅舎が、展示などに利用できるスペースとして生まれかわってオープンし、アーティスト・クリエイターの発表の場として運営を始めました。



ヨコハマ・パフォーミング・アーツ・コンプレックスより
「レミューズ・ダイナモ」(元町ショッピングストリート)



創造空間9001

2 中間支援機能の充実

アーティストの創造活動および市民・NPO等の文化活動の支援を行うとともに、企業・学校等との情報交換・連携を推進し、横浜市の芸術文化政策における中間支援機能の充実に努め、財団のコーディネート能力を発揮しました。

主な取り組み

● アーツコミッション・ヨコハマ（ACY）始動

7月に芸術文化活動に関する相談窓口がZAIM内にオープンし、横浜に集う創造の担い手たちを応援し、より活動しやすい環境をつくるため、情報の集約等を進め、様々な相談に応じる体制と支援する仕組みづくりを行いました。



ACYラウンジ

● 文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業拡大

市内11地区において、商店街や子育て支援など様々な分野の団体と連携・協働で、コンサートやワークショップを行い、文化芸術による地域コミュニティの活性化に寄与しました。



地域づくり事業

● 芸術文化教育プログラム推進 ／芸術文化教育プラットフォーム設立

市内小学校で体験型のワークショップを行うとともに、NPO等にコーディネートを依頼するなど、学校（子どもたち）とNPOをつなぐ役割も担いました。

また実施校、プログラムをより拡大するため、NPOだけでなく、地域団体や企業など様々な団体が相互に協力し、多様なプログラムを提供する仕組みとして「芸術文化教育プラットフォーム推進委員会」が設立され、今後の推進体制が整いました。



芸術文化教育プログラム

● 横浜トリエンナーレ市民サポーター活動

200名を超えるサポーターが登録し、機能別にグループに分かれ、20年度の本展を周辺からいっそう盛り上げる仕掛けを活発に展開しました。



横浜トリエンナーレ
市民サポーターイベント

3 政策提案・政策支援・調査研究機能の充実

7月に設立された創造都市横浜推進協議会に参画し、芸術文化振興の専門機関として横浜市の芸術文化政策への提言や、政策提案を行い、創造都市を推進する事業企画や仕組みに生かされました。また、その基礎となる各種データの収集や蓄積を行い、分析を進めました。

主な取り組み

- **都市文化研究室設置**
市への政策提案や政策を支援するため、横浜の文化基盤の調査を行う都市文化研究室を設置し、専門施設のポジショニング調査に着手、分析を進めました。
- **公益法人制度改革対応**
平成20年12月施行の新公益法人法に合わせ、早期に公益財団法人となるようスケジュール等の情報収集と財団の方向性、申請手続等、各要件の精査に努め、準備を進めました。
- **顧客満足度調査共通項目の設定・集計**
施設運営・自主事業の質の向上を図るため、利用者・来場者へのアンケートに財団の共通項目を設定・集計を行い、利用者の声を今後の改善につなげます。
- **個別事業評価システム導入**
各自主事業について、PDCAサイクルを意識した事前・事後評価を行うシステムを導入し、今後の戦略・事業計画につながるよう、データの蓄積を行いました。

顧客満足度調査結果

実施事業数	229事業
配布数	412,162
回収数	16,636
回収率	4.1%
顧客満足度	4.42

事業来場者(または施設利用者)へのアンケートによる調査

- ・「事業」(または「施設」)の内容
- ・職員・スタッフの対応・サービス
- ・施設の使い勝手や清潔さなど快適性の3項目について、満足・やや満足・ふつう・やや不満・不満の5段階の回答を集計(5点満点)

4 コスト削減と必要財源の確保

管理運営経費の節減とともに、公的および民間の助成金や、地域の企業等からの支援・協力の働きかけなど、積極的な外部資金の獲得に努めました。また、財団経営の今後の課題および新たな資金獲得の検討を進めました。

主な取り組み

- **外部資金獲得の仕組み開発**
〈企業連携プログラム Heart to Art〉
横浜美術館において、企業との連携プログラムによる新しい資金調達の手法を開発し、民間資金導入による、市民へアートの提供を行う仕組みを整備しました。

5 その他の取り組み

中期経営ビジョンに基づき重点的に取り組んだ4項目以外の取り組みについても、「多様な人材の育成」については、他機関への職員派遣などによる人材の育成、「経営戦略に基づく経営」については、業務の定期的な振り返り・自己評価・改善による効率的な運営など経営基盤の強化に努めました。

特に、「情報提供機能の充実」については、情報誌やホームページで、芸術文化のより豊富な情報を、よりわかりやすく提供するためのデータベース化など、情報提供機能を強化するとともに、各施設においても、市民からの芸術文化に関する相談等に適切に対応し、運営の充実にもつなげました。

ヨコハマ文化情報 (情報誌)	毎月40,000部発行
ヨコハマ・アートナビ (ホームページ)	年間アクセス数 (ページビュー/財団全体) 16,734,617

特記事項

12月に横浜にぎわい座が「日本奇術協会賞」を受賞しました。毎月の常打ち興行での奇術のラインナップ、「世界マジックシンポジウム」への協力などが、日本の奇術界の発展に貢献したと認められたものです。

3月には横浜市が「文化庁長官表彰」を受賞しました。今年度創設された「文化芸術創造都市部門」において、横浜市の文化芸術を柱とする総合的な都市づくり「文化芸術創造都市・横浜」の取り組みが認められたものであり、ZAIMの運営、アーツコミッションの展開、横浜からの芸術文化の創造・発信など、当財団が貢献した役割は大きいといえます。

さらに、横浜能楽堂特別公演「釣狐」の演技による、能楽師の山本則俊さんの「芸術祭賞優秀賞」、横浜みなとみらいホール「オペラ未来プロジェクト」において演出助手を務めていただいている、伊香修吾さんの「第19回五島記念文化賞オペラ新人賞」、同じくみなとみらいホールで開館以来のホールオルガニストである、三浦はつみさんの「横浜文化賞奨励賞」、また、横浜美術館が19年度企画展として取り上げた、森村泰昌さんの「芸術選奨文部科学大臣賞」、横浜にぎわい座で人気の独演会を定期的で開催している、立川志の輔さんの「芸術選奨文部科学大臣賞」、林家たい平さんの「芸術選奨文部科学大臣新人賞」など、アーティストの発信にも貢献しました。

加えて、BankARTの池田修さんの「芸術選奨文部科学大臣新人賞」（芸術振興部門）の受賞は、芸術文化による地域活性化など横浜での取り組みが評価されたもので、「文化芸術創造都市・横浜」を目指した取り組みへの注目度の高さともいえます。

【19年度実績】

○自主事業

〈 18年度実績との比較 〉

年度	事業数	入場・参加者数
18年度実績	1,245	3,044,285人
19年度実績	1,297	3,058,213人

〈 19年度計画との比較 〉

年度	事業数	入場・参加者数
19年度計画	1,252	2,071,402人
19年度実績	1,297	3,058,213人

○施設運営

年度	全施設平均利用率 (ホールのみ、日単位)	施設利用者数
18年度	75%	2,371,835人
19年度	77%	2,516,380人

平成19年度 事業報告 概要

1. 平成19年度の事業展開について

自主事業については、中期経営ビジョンに基づき、①「芸術創造・発信事業」、②「芸術家発掘・支援事業」、③「市民協働推進事業」、④「芸術への市民アクセス拡大事業（鑑賞系）」、⑤「芸術への市民アクセス拡大事業（体験・参加・学習等）」、⑥「都市政策的事業」、⑦「情報事業」という7つの事業目的を設定し、目的を実現する事業を企画・実施しました。特に「横浜からの創造・発信」、「中間支援」という今後の財団の機能を強化する事業を充実させました。

施設運営については、「横浜みなとみらいホール」および「横浜能楽堂」が公募後の本格的指定管理者として運営を開始しました。20年度本格導入の「横浜美術館」についても共同事業体と定期的に打合せを行うなど着実に準備を進めました。その他9施設を含め計12施設の運営を行いました。また「関内ホール」については、共同事業体の一員として運営に参画しました。各施設とも、提案書等に基づき運営を行うとともに、「文化芸術創造都市・横浜」の全市展開を目指し、芸術文化の拠点機能を発揮する取り組みを進めました。特に、市民企画委員会、利用者懇談会や、市民ボランティアの活用など、市民の声、市民の力が運営に反映する仕組みづくりを推進しました。

①芸術創造・発信事業 財団寄附行為第4条（事業）（1）芸術文化事業の企画及び実施

独創的で発信性の高い制作事業、フェスティバル事業、国際交流事業、国内外ネットワーク事業など、施設のプロモーションや「文化芸術創造都市・横浜」の推進に貢献することを目的とした事業

○オルガンリサイタルシリーズ（横浜みなとみらいホール）

若手作曲家と出演オルガニストの協働による新作曲を委嘱し、リサイタルを行い、オルガンの新しい可能性を横浜から発信しました。

○企画公演「もう一つの『翁』」（横浜能楽堂）

かつて神事芸能として演じられていた「翁」を、断片的に残る資料を分析し、研究者たちによって復元・上演し、学術的な観点でも画期的な芸術の創造となりました。

○日本-フィンランド-韓国共同制作プロジェクト「Ääressä ～かたわらで～」 （横浜赤レンガ倉庫1号館）

日本・フィンランド・韓国のアーティストが、ディスカッションに始まり、それぞれの地勢、環境、文化の違いを理解し、お互いに吸収し合いながら創作を行うという、国際交流の中から新たな芸術創造を行いました。



日本-フィンランド-韓国共同制作プロジェクト
「Ääressä ～かたわらで～」(横浜赤レンガ倉庫1号館)



企画公演「もう一つの『翁』」(横浜能楽堂)

②芸術家発掘・支援事業 財団寄附行為第4条（事業）（2）芸術文化活動の奨励及び育成]

コンクール、育成プログラム、アーティスト・イン・レジデンスなど、新しい芸術表現や実験的な試みに挑戦する新進芸術家を発掘し、活動を支援する事業

○アーティスト・イン・ミュージアム／新進アーティスト展 New Artist Picks
／キュレトリアル・サポーター・プロジェクト展（横浜美術館）

レジデンスによる作家の創造支援や、美術館スタッフ及び市民が選んだアーティストたちに発表の場を与えるとともに、創造・発表の中でワークショップなどを交えるなど、様々な面で市民とのコミュニケーションの場も提供し、アーティストをサポートしました。

○横浜オペラ未来プロジェクト2007「ロッシェニ作曲オペラ『セヴィリアの理髪師』」
（横浜みなとみらいホール）

関連事業として、リハーサルや製作過程の公開、アウトリーチコンサートなど、若い芸術家たちと市民が横浜の様々な場で触れ合う機会を提供し、市民とアーティスト、アーティストと横浜をつなぐ役割を果たしました。

○若手実演者育成支援公演（横浜にぎわい座）

のげシャレー（小ホール）を会場に、大衆芸能の幅広いジャンルの若手実演者に発表の場を提供するとともに、市民には大衆芸能をよりいっそう身近なものとする鑑賞機会を提供し、市民とともに若手支援を行いました。

○DAWN PROJECT（横浜赤レンガ倉庫1号館）

6グループ17校の美術系大学等の卒業制作展の制作支援を行い、アーティストを志す学生たちに発表の場を提供するとともに、創造界限形成にも貢献しました。



New Artist Picks
浅井裕介展 根っこのカクレンボ
（横浜美術館）

アーティスト・イン・ミュージアム横浜
OFF SITE2007 平野薫／sullen



横浜オペラ未来プロジェクト2007
「ロッシェニ作曲オペラ『セヴィリアの理髪師』」
（横浜みなとみらいホール）



キュレトリアル・サポーター・プロジェクト
「横浜美術館ボランティアが出逢ったー若きアーティスト展」

③市民協働推進事業 財団寄附行為第4条（事業）（2）芸術文化活動の奨励及び育成

市民企画の公募、市民団体やNPOとの共同事業、アートマネジメント講座など、市民の企画制作力の向上と、市民・NPOの活動を支援し、参加・協働の機会を提供する事業

○人材育成事業（横浜美術館）

インターンや大学生の実習の受け入れほか、市民と美術館をむすび、アウトリーチのワークショップ等を実践的に担当できる人材を育成しました。

○「野毛まちなかキャンパス」連携（横浜にぎわい座）

「野毛」の町全体をキャンパスに見立て、様々な角度から野毛を研究する企画（野毛地区街づくり会と横浜商科大学の共催）に実行委員として参加し、主催した2回の講義が好評を得たとともに、街との連携及び地域の活性化につながりました。

○平成19年度市民企画アイディア講座（横浜市民ギャラリーあざみ野）

市民が事業の企画を行うとともに、施設とのディスカッションを通して、協働で講座を実現させ、市民が気軽に芸術文化に触れることができる活動を主体的に行うことを支援しました。

○区民企画「白鳥の湖」（旭区民文化センター）

区民企画委員と地域のアーティストが力を合わせて脚本づくりや振付けなど、制作過程から携わり、ピアノ連弾と朗読・バレエによる公演を成功させ、区民が主体的に芸術文化活動を行える仕組みを推し進めることができました。

○いそご文化資源発掘隊（磯子区民文化センター）

区民が区内の文化資源や企業の活動を知ることを通して、地域の魅力を再発見し、参加者が活動記録をホームページで発信するなど区民が主体的に関わるとともに、地域と企業をむすぶ役割も担いました。

○地域活力推進事業「ミュージックプラザ」（吉野町市民プラザ）

ホールで音楽・演劇公演を行う団体を公募し、公演実施までの協力を行うことによって、地域の人々が芸術文化活動を行う環境づくりを推進しました。

○横浜映像天国2008（岩間市民プラザ）

横浜市内を中心に活動する自主映画制作サークルや映像作家を目指す人々から公募した作品を上映し、観客と審査員の投票により優秀作品を選ぶ、横浜発の市民映像祭を共同で開催し、活動を支援しました。



いそご文化資源発掘隊
（磯子区民文化センター）



区民企画「白鳥の湖」
（旭区民文化センター）



野毛まちなかキャンパス
（横浜にぎわい座）

④芸術への市民アクセス拡大事業(鑑賞系事業)

財団寄附行為第4条(事業)

(1) 芸術文化事業の企画及び実施 (2) 芸術文化活動の奨励及び育成

専門施設・地域施設を中心に財団以外の施設も活用し、また学校、公園等でのアウトリーチ活動なども含め、様々な場所で市民が幅広いジャンルの芸術文化を身近に鑑賞する機会を提供し、新たな鑑賞者も開拓するような事業

○企画展「水の情景—モネ、大観から現代まで」(横浜美術館)

市民にとって身近な「水」をテーマに、展覧会のほか、民間団体等との共同作業によるさまざまなイベントも行い、鑑賞・参加を通じて、幅広い層の方に楽しんでいただける展覧会となりました。

○企画展「GOTH—ゴス—」(横浜美術館)

様々なカルチャー・シーンで語られる「ゴス」を現代美術の観点からとらえ、横浜美術館ならではの視点で独自の展覧会を発信し、新たな鑑賞者を開拓しました。

○開場五周年記念興行(五月興行)(横浜にぎわい座)

開場五周年を記念して、落語界の大看板とにぎわい座が推薦する中堅人気演者に出演いただき、節目にふさわしい盛大な興行で、7000名を超える入場者を迎えました。

○特別展「21世紀の鞍馬天狗—見る、考える、行動する」(大佛次郎記念館)

大佛次郎の代表作である「鞍馬天狗」に関しての、自筆原稿や初版本、挿絵原画、作品舞台の写真パネル、映画ポスターなどを展示し、鞍馬天狗とともに、大佛次郎の魅力的で豊かな人間像を多くの方に紹介しました。



(リック・スワロー)



企画展「GOTH—ゴス—」
(横浜美術館)

(ピュー・びる)



特別展

「21世紀の鞍馬天狗—見る、考える、行動する」
(大佛次郎記念館)



企画展「水の情景—モネ、大観から現代まで」
(横浜美術館)

⑤芸術への市民アクセス拡大事業(体験・参加・学習等)

財団寄附行為第4条(事業)

- (1) 芸術文化事業の企画及び実施 (2) 芸術文化活動の奨励及び育成
(4) 芸術文化に関する調査及び研究

入門的実技体験講座、講演会・シンポジウム等の学習事業、創造体験ワークショップ、公募による市民参加事業、学校等へのアウトリーチ講座など、全ての市民が芸術文化に身近に親しむ機会を提供する事業

○こどもの美術展(横浜市民ギャラリー)

小学生以下の子どもたちから公募した作品を一堂に展示したほか、ワークショップも交え、親子の対話の場や、子どもたちの美術への関心を高め、子どもたちの健やかな成長を支援しました。

○“夏の”こどもぎやらりい2007(横浜市民ギャラリーあざみ野)

子どもたちの絵画展示のほか、その場で気軽に参加できるワークショップなど、参加・体験して楽しむ仕掛けや、運営に参加いただいた市民ボランティアの方々との交流により、地域や社会の中で共に生きる子どもたちの豊かな成長を支援しました。

○開館3周年記念杉劇ミュージカル「奇妙奇天烈摩訶不思議 いそごの星のものがたり」 (磯子区民文化センター)

地域の子どもたちと大人の共演だけでなく、衣装・メイクを学ぶ学生やボランティアの方々が制作・運営面でも参加し、プロの指導・舞台製作によって、地域を題材とした作品を創り上げ、地域交流・世代間交流の中から、地域の文化の継承・発信を行いました。

○薩摩琵琶&箏ワークショップ「薩摩琵琶と箏を体験してみよう！」(吉野町市民プラザ)

普段あまり触れることのない楽器である薩摩琵琶と箏を、地元ゆかりの演奏家による指導と演奏を交え小学生が体験し、伝統文化への理解を深める機会を提供しました。

○特別養護老人ホーム「椿寿」での演奏会(岩間市民プラザ)

地域の特別養護老人ホームでクラシック音楽の生演奏を行うアウトリーチ事業で、普段コンサートホールへ来られない方々へ、芸術文化に親しむ機会を提供しました。



“夏の”こどもぎやらりい2007
(横浜市民ギャラリーあざみ野)



「奇妙奇天烈摩訶不思議
いそごの星のものがたり」
(磯子区民文化センター)



特別養護老人ホーム「椿寿」での演奏会
(岩間市民プラザ)



こどもの美術展2007
(横浜市民ギャラリー)



横浜市こどもの美術展2007

⑥都市政策的事業

財団寄附行為第4条（事業）（1）芸術文化事業の企画及び実施]

集客・産業・観光振興など街の活性化に貢献する事業、地域コミュニティや地域ネットワークを形成する事業、歴史的建造物など地域資源を活用する事業、芸術家や文化産業の集積とマーケットの構築につながる事業

○ジルヴェスターコンサート／ニューイヤーコンサート（横浜みなとみらいホール）

この日のためだけに勢揃いした豪華多彩な出演者と質の高い演奏（ジルヴェベスター）と、新年を祝う華やかな公演（ニューイヤー・クイーンズ・ガラ）で、周辺の企業等と協力するとともに、みなとみらい地区一体のにぎわい創出へ貢献し、クラシック音楽の客層拡大にもつなげました。

○横浜あかりアーツコラボレーション2007「天上の楽」-春日大社の雅楽-（横浜能楽堂）

「ミナト・横浜」を象徴する「帆船日本丸」を背景とした特設舞台で、「あかり」・「舞台芸術（雅楽）」・「都市空間」のコラボレーションを上演することにより、横浜からの新しい芸術の発信と、文化芸術創造都市・横浜の都市づくりに貢献しました。

○横濱ジャズプロムナード2007

横浜を代表する秋の恒例イベントとして定着し、19年度も、134,000人を動員し、市内各所で「街角ライブ」を展開するなど、ジャズの街・横浜のアピールと街の活性化に貢献しました。



ジルヴェスターコンサート(横浜みなとみらいホール)



横浜あかりアーツコラボレーション2007
「天上の楽」-春日大社の雅楽-
(横浜能楽堂)



横濱ジャズプロムナード2007

⑦情報事業

財団寄附行為第4条（事業）（3）芸術文化情報の収集及び研究

市内外の文化団体・NPO等の文化芸術情報をきめ細かく収集し、インターネットや情報誌、映像コンテンツなどにより、効果的に市民へ情報を提供する事業

○ヨコハマ文化情報（情報誌）／ヨコハマ・アートナビ（ホームページ）

横浜市内の芸術文化情報に市民が気軽にアクセスできるよう、情報の収集や、内容の充実を図り、20年度からのモバイルサイトの整備など、より便利で身近に芸術文化情報を得られる仕組みづくりを行いました。

○アートチャンネル

tvkコミュニケーションズとの協力により、財団の施設やアーティスト情報、横浜で行われた様々なイベントなど、横浜のアートシーンをWeb、テレビ、街頭画面など多面的に情報発信を行いました。

【事業目的別事業数】

	芸術創造・発信事業	芸術家発掘・支援事業	市民協働推進事業	アクセス拡大事業（鑑賞系事業）	アクセス拡大事業（体験等）	都市政策的事業	情報事業	合計
H18年度	49	68	102	491	443	92	-	1,245
H19年度	51	88	108	523	380	135	12	1,297

【ジャンル別事業数】

	音楽	演劇	舞踊	古典芸能	大衆芸能	映像	美術工芸	その他	合計
H18年度	385	24	38	25	263	23	384	103	1,245
H19年度	406	47	40	42	264	24	347	127	1,297

⑧拠点施設の運営

財団寄附行為第4条（事業）（5）芸術文化施設の管理及び運営

アマチュアから一流のプロまで、芸術・文化活動に携わる全ての人々が練習・創作・発表・鑑賞などの場として満足して利用できるよう、使いやすさ、快適性、安全性などの維持向上を図り、施設運営の面においても「文化芸術創造都市・横浜」に寄与する運営に取り組みました。施設オリジナルのホームページによる、より身近な情報提供を行うとともに、利用率の向上と幅広い利用を促進させる取り組みや顧客満足度調査などを行い、利用者の声が反映される運営を心がけ、各施設が芸術文化の拠点となるよう、さまざまな活動を行いました。

指定管理者施設については、それぞれの業務の基準や提案書等に基づき、計画的・効率的な施設運営を進めるとともに、共同事業体との連携や複合施設については他団体との連携を積極的に図りました。

また、安心・安全・快適な施設管理・運営をするため、定期的に実際に即した消防訓練の実施や貸館対応の研修などを丁寧に行いました。

⑨その他の事業

財団寄附行為第4条（事業）

- （4）芸術文化に関する調査及び研究
- （6）売店及び駐車場の経営
- （7）その他法人の目的を達成するために必要な事業

調査・研究事業として、「横浜美術館研究紀要」や大佛次郎記念館の「おさらぎ選書」の発行を行いました。

また各施設のショップでは、新しいグッズの開発などを積極的に行い、鑑賞や参加するだけでなく、付加価値の創造・提供を行いました。

2. 機能・施設別 平成19年度事業報告総括

〔経営戦略〕

【経営企画、業務管理、広報情報】

○経営企画

芸術文化の専門的公益組織として、効果的な活動・運営を行うため、事業計画の進行管理や、個別事業評価システムなど、経営の分析を行うシステムの整備を行いました。

調査・研究においては、顧客満足度調査や、専門施設におけるポジショニング調査の着手など、市民の声を反映するとともに、効果的な運営を行う分析を開始しました。

また、20年度施行される新公益法人法に合わせた、公益財団法人への早期移行に向け、今後の財団の方向について議論し、移行に向けた準備を進めています。

○業務管理

人事に関しては、有期雇用・単年度契約・人材派遣など多様な雇用形態を活用し、適材適所への職員配置を進めました。あわせて給与制度改正と業務の効率化によって人件費率抑制に向けた検討を続けています。また、人材育成計画に基づき必要な研修の機会を増やすよう努めました。財団主催では、リーダー研修（7回実施）をはじめとして施設の管理、AED取り扱いや広報に関する研修を行い、延べ約200人が参加しました。外部団体主催のものでは、ビジネススキル向上や管理職のためのメンタルヘルス・マネジメント等の研修に28回、延べ約50名が参加しました。

経理に関しては、経理業務の一元化による合理化と効率化に向けた取り組みを着実に進めました。また、月次での会計報告を実施するなど、管理会計によって経営状況を素早く把握するための体制を整え、長期に渡る資産運用も実施しています。

施設管理については、修繕案件のとりまとめと、優先順位、経費等を考慮に入れ市との調整に努めました。

○広報情報

情報誌は、20年度からのWebとの連携強化を見据え、タイトルをホームページと同じ「ヨコハマ・アートナビ」に変更することを決定しました。また表紙での若手アーティスト作品の紹介、民間専門学校との協働など、新たな試みを取り入れるなど、20年度発行に向けて準備を進めました。Webでは、携帯サイトの立ち上げ、財団内だけでなく市内イベント情報のデータベース化に向けた整備を行いました。

広報・公聴機能についても、記者発表資料の一元管理や施設・市との連携を密に図り、円滑な報告・連絡体制を整えました。

情報管理については、事務局移転を機に事務局内のインフラを整備し、サーバー統合、セキュリティ管理を総合的に実施しました。また、財団全体の情報共有についても、DOXを活発に活用し、必要な情報の共有化を推進しました。

〔事業戦略〕

【支援協働、事業開発】

○支援協働

市民、NPO、アーティスト、そして地域との協働・連携を目指し、「アーツコミッション・ヨコハマ」「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」「芸術文化教育プログラム推進事業」「地域文化施設～指定管理者連携事業」を実施、これらを通じて、様々な団体、コミュニティとの関わりを強めました。協働パートナーをアート関係者に限定せず、福祉、教育、商店街、子育て支援団体、行政各局など幅広く連携し、アートを通じたコミュニティの活性化を目指しました。

また、上記のように地域と都心部でプログラムを展開することにより、情報交換や相互の連携を図ることができました。次年度はこの成果を地域でのクリエイティブな活動の展開に発展させていきます。

○事業開発

横浜市が掲げる「文化芸術創造都市」の実現に向け、着実に成果を上げました。

創造発信型のフェスティバル事業としては、15回目となる横濱ジャズプロムナードを開催し、観客数・出演者数ともに過去最高を記録しました。また新規事業として、ダンスや演劇など、舞台芸術の最新の潮流を紹介する新たなフェスティバルを目指したモデル事業

「YOKOHAMA PERFORMING ARTS COMPLEX」を開催し、将来への展望を開きました。

創造界隈の形成を推進する拠点施設として、開館2年目となるZAIM及び9月に開館した創造空間9001（旧東横線桜木町駅舎）を運営し、アーティストやクリエイターの集積に貢献しました。

映像文化都市に関しては、3回目となる映像フェスティバル「YOKOHAMA EIZONE」や、横濱学生映画祭の開催に協力し、また、若手クリエイターを育成する目的で、デジタル・ワークショップも実施しました。

創造の担い手を育成する取り組みとしては、横浜トリエンナーレ2008に向けて市民サポーター（登録数200名超）のイベントや広報の活動が始動し、本展を市民が周辺から盛り上げる体制を支援しました。

さらに、創造都市交流事業では創造の担い手としてのNPO等の中間支援組織が海外視察先都市とネットワークを築き、連携事業の具体化に踏み出しました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	109	3	4	10	-	26	66	-	65	2	5	-	-	2	2	33	178,448
H19年度	182	15	-	12	2	32	117	4	50	12	2	-	-	13	-	18	271,790

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

〔施設戦略〕

【横浜美術館】

平成19年度は、20年度からの本格的な指定管理者共同事業体による運営を意識し、地域密着と市民協働を念頭に置いた活動を中心に、多様な活動を行いました。今後の健全な美術館経営に資するための外部資金導入システムとして「Heart to Art事業」を新たに立ち上げ、19年度は当初目標を上回る資金を獲得しました。今後も広くサポート企業を募り、ファンドレイジングの仕組みとして確立していきます。

企画展は、市民に身近なテーマや、新たな視点・新たな芸術の紹介など多彩で、独自性のある展覧会を展開し、メディア等においても多数取り上げられました。その中でも10年振りに取り上げた森村泰昌氏が、19年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞し、これまで支援してきたアーティストの活躍が認められたことは、当館にとっても成果といえます。

また、20年度より始まる「横浜美術館塾」の市民への周知を兼ねたプレイベントを開催し、多くの市民の参加を得る成果をあげました。

その他、インターンの受入れやボランティアの登用、新進アーティストの滞在制作・展示、ティーチャーズデイなど、既存の事業から発展した活動も活発に行いました。

また、横浜トリエンナーレや黄金町バザールなど横浜市が行う創造都市界限事業への支援・協力や、開港150周年記念事業に向けた取組みなども積極的に行いました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	335	-	6	1	88	240	-	-	54	-	-	-	-	1	279	1	309,609
H19年度	258	-	3	-	58	197	-	-	24	-	-	-	-	-	234	-	365,109

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H18年度	307	341,567
H19年度	309	413,410

【横浜みなとみらいホール】

平成19年度は、「文化芸術創造都市・横浜を推進する拠点」「音楽創造の基盤整備」「市民協働による音楽文化の振興」という3つのコンセプトと「公共ホールの新たな運営モデルの実現」「目標管理と評価制度の確立」の2つのシステムの実現に向け指定管理者として始動しました。また、池辺新館長の就任について広く周知を図り、横浜みなとみらいホールの顔として館長及び施設の認知度を高めるとともに、指定管理者共同事業体各社と密接に連携をとりつつ、各業務を実施しました。

自主事業においては、「創造発信プログラム」、「若手芸術家サポートプログラム」、「鑑賞人口拡大プログラム」、「子ども芸術体験プログラム」、「市民活動展開プログラム」の5つの事業体系に沿って多数の主催事業を開催するとともに、大・小ホール以外のスペースも含めた施設全体をより柔軟に活用し、多様なコンサートやワークショップなどを実施しました。

また、高い施設利用率を維持しながら、年間を通して数多くのコンサートがより効果的に開催されるよう、あらゆる相談にきめ細やかに対応するなど、貸館事業においても積極的に利用者を支援しました。

管理面においては安全管理面の充実を図るとともに、評価制度の導入による業務改善にも着手しました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	152	3	6	9	94	35	5	-	151	-	-	-	-	-	-	1	169,476
H19年度	190	7	20	9	142	5	7	-	189	-	-	-	-	-	-	1	199,242

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール利用率(%)		施設全体 利用人数
		大ホール	小ホール	
H18年度	337	81 (61)	98 (83)	494,004
H19年度	335	88 (68)	98 (83)	525,247

※ホール利用率：日にち単位（時間帯単位）

【横浜能楽堂】

平成19年度から「指定管理者」として新たなスタートを切りました。これまで以上に「敷居の低い能楽堂」を目指し、新規に普及公演やワークショップを企画して様々な層の方が能・狂言を始めとした多彩な古典芸能を楽しめる事業を展開しました。

ソフトをより幅広く活用するために外部機関とも連携を進め、早稲田大学と共同研究した成果として企画公演を上演したほか、例年他会場で開催されていたNHK能楽鑑賞会の誘致にも成功し、NHKとの共同主催の2公演は全国放送されました。また、19年度芸術祭賞演劇部門で、横浜能楽堂特別企画公演において狂言「釣狐」を勤めた山本則俊氏が優秀賞を受賞しました。

施設運営についてはインターネットチケット購入システムを導入してお客様の利便性を高めたほか、本舞台の見学、市民からの古典芸能に対する問い合わせへの対応などの業務を実施しました。ショップでのオリジナル新商品の開発も進み、第一弾の発売を開始するなど提案書の実現に向けて取り組みました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	31	15	-	1	9	5	1	-	4	-	1	23	-	-	-	3	9,346
H19年度	35	6	-	1	6	19	3	-	-	-	1	34	-	-	-	-	7,683

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	本舞台 利用率(%)	施設全体 利用人数
H18年度	340	26	35,770
H19年度	339	31	37,827

※本舞台利用率：日にち単位

【横浜にぎわい座】

平成19年度は、前年度まで課題としてきた運営全般における「基盤整備」を礎とし、「更に一段階発展させる年度」と位置づけ、各分野において思い切ったシステムの見直しや新たな試みを行うことにより、大衆芸能専門館としての機能の充実を図りました。

自主事業については、5月に『開場五周年記念興行』を実施。これまでに培った事業実施のノウハウを活かした魅力的なラインナップを実現し、大盛況のうちに終了しました。また、「開場五周年」を一つの節目として捉え、新たな落語鑑賞者層を獲得するべく「1,000円デーの実施」や「ポイントカード制度の見直し」、「一部人気公演のチケット販売方法変更」等を行いました。加えて、電子大福帳のデータ入力を完了し、指定管理期間内での達成目標に掲げている「大衆芸能情報センター機能の完備」への足がかりを築きました。

施設運営については、前年度に行った貸館制度の見直し・スタッフのスキルアップ等の「内部基盤」を発展させ、積極的に外部に働きかけるホールセールの実施や地域・近隣文化施設との連携事業を展開しました。また、世界的な奇術のシンポジウム誘致に成功し、この成果により「日本奇術協会賞」を受賞しました。その他、お客様からのアンケート等により、新たな備品の設置・ホームページからの舞台図面ダウンロードを可能にするといった会場毎の利便性も高める工夫もしました。これらの取り組みにより、利用率・利用料金収入において前年度を上回る結果を残しました。

施設管理については、保守・整備が必要なハード面の修繕計画見直し・在庫品保管体制の見直しにより、施設管理に関する経費の効率的かつ効果的な運用を行いました。加えて、より快適な施設を提供できるようアンケートやお客様からのご意見をきめ細かく分析し、速やかな改善対応に努めるとともに、全スタッフ参加の避難訓練やAED講習を実施し安全面の強化にも努めました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	253	4	12	-	217	12	8	-	-	-	-	-	253	-	-	-	57,004
H19年度	260	4	36	3	208	9	-	-	-	5	-	-	253	-	-	2	61,910

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール利用率(%)		施設全体 利用人数
		芸能ホール	小ホール	
H18年度	341	80 (76)	38 (31)	89,773
H19年度	341	78 (76)	46 (35)	98,410

※ホール利用率：日にち単位（時間帯単位）

【横浜赤レンガ倉庫 1 号館】

平成19年度も「芸術文化の創造発信」「賑わいの創出」をコンセプトに、「2つの創造発信（コンテンポラリーダンス・アートの推進）」、「1つの集客（企業・行政等との協働による赤レンガの賑わい作り）」、「1つの育成（美術系学校との卒業展示等）」といった3つの戦略を掲げ事業展開を図りました。

「2つの創造発信」については、ダンスではダンスコレクションRにアジア・ヨーロッパ諸国から164組の応募があり、2月に行なわれた本選においても内外のダンス関係者から高い評価をいただきました。またアートにおいてもアートリンクで有料入場者数72,000名を記録するなど、目的としているコンテンポラリー系事業の周知について確実に成果となって表れました。「1つの集客」については、イベント・フェスティバル等を積極的に受け入れ、賑わいを創出し、赤レンガ倉庫の年間来街者500万人に貢献しました。また、「1つの育成」では、6つの卒業展示を開催、計17校が赤レンガの卒業展示に参加し、長岡造形大学のような地方からの参加もありました。

運営・管理面においては、以前からの柔軟な運営を継続し、貸館においては高い稼働率を堅持、また収支についても協賛金・助成金等の獲得、利用料収入の大幅増による自主財源の向上により、順調に推移しました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	54	18	20	3	1	-	12	-	4	5	28	-	-	5	2	10	2,221,068
H19年度	53	16	22	3	4	-	8	-	1	6	20	-	1	12	7	6	2,031,230

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H18年度	365	94	443,206
H19年度	365	86	537,093

※ホール利用率：日にち単位

【大佛次郎記念館】

博物館・図書館・観光施設の機能を併せ持つ文芸分野の拠点施設として、平成19年度も展示、講座・講演会、資料の蒐集・整理、レファレンス、出版などの活動を行いました。

特別展は、大佛次郎原作の「鞍馬天狗」がNHKテレビでドラマ化されるのを好機ととらえ、「21世紀の鞍馬天狗一見る、考える、行動する」を放送時期に合わせて本年1月から3月まで開催し、5千人強のお客様を迎えることができました。関連事業も積極的に展開し、当館研究員がガイドをつとめた「歴史散歩 鞍馬天狗横浜に行く」や、小中学生対象の版画ワークショップ「ネコの鞍馬天狗を摺ってみよう！」を開催するとともに、恒例の歴史講座も「幕末維新の生きかた」と題し関連事業として位置づけました。さらに、出版社との協働により、図録「鞍馬天狗読本」を作成、市販本としても販売されました。

そのほか、ご来館いただくきっかけづくりとして、春秋の「お茶会」、朝日新聞社との共催による「大佛次郎賞受賞記念講演会」、フランス月間2007記念「歴史講座」などの恒例事業を着実に実施し、館の周知と集客に努めました。

以上の様々な努力の結果、目標の年間入館者数2万人を達成することができました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	11	-	1	1	2	7	-	-	-	-	-	-	-	1	2	8	8,016
H19年度	11	-	-	3	3	5	-	-	-	-	-	-	-	3	8	8	7,867

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H18年度	340	22,680
H19年度	342	21,915

【横浜市民ギャラリー】

平成19年度は、20年度、21年度を前にして運営の足場を固める年度と位置づけ、6つの重点的な項目をあげ取り組みました。

貸館事業は、展示室の利用率100%を維持し、多くの市民に展示スペース活用の機会を提供しました。

自主事業においては、「ニューアート展2007」では、女子美術大学と連携し今後の大学連携の基礎を形成しました。また、第3回「ハマキッズ・アートクラブ」を企業と連携して実施し、今後の企業との連携の基礎を形成し、子どもに対する取り組み事業の可能性を拡大しました。

『アートヨコハマ』は33、34、35号を定期的に発行し、横浜市民ギャラリーの活動報告とともに市内の美術に関する情報を市民に提供しました。

「横浜トリエンナーレ2008」に向けては、同時期に「ニューアート展2008 ブラジル×ヨコハマ 時の懸け橋」を開催することを決定し、準備に着手しました。本展は、トリエンナーレのコンセプトである「タイムクレヴァス（時の裂け目）」との関連から、100年の歴史のあるブラジル日系画家たちの作品と日伯現代美術の交流を紹介し、ブラジルとヨコハマの間に美術の懸け橋を架けることを目指すものです。

市民へのサービスを充実させるために、地下1階事務所にインフォメーションコーナーを作り、インフォメーションカウンターを設置し、十分な情報提供サービスをできる体制を整えました。

また、施設管理面では、教育文化センターのアスベスト撤去工事に伴う、貸館事業などの調整や利用者への説明など、工事が適切に行われるよう取り組みました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	9	-	-	-	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	25,377
H19年度	9	-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	30,887

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H18年度	349	474,706
H19年度	352	429,863

【横浜市民ギャラリーあざみ野】

平成19年度は開館から3年目を迎え、指定管理者提案書に沿い、芸術文化を通した市民の主体的活動を促進し、文化芸術の裾野を広げるとともに、いきいきした地域社会を作ることがを目標に事業に取り組み、男女共同参画センター横浜北との複合施設として、年間29万6千人を越える入館者を得ることができました。

「文化芸術に出会う喜びを」、「地域社会への貢献を」、「総合力の活用を」という3つの基本方針に基づき事業展開および管理運営にあたりました。

様々な市民グループによる展示室、アトリエの利用があり、地域を中心に市民の主体的な芸術創造・発表の場として機能しました。また、企画展、コンサート、講座等の自主事業では、生き活きた現代の芸術を地域に伝えると共に、小学校、中学校、障害者施設の展覧会観覧の受け入れやアウトリーチ活動を行った他、地域の大学との連携事業など市内、地域の施設等との協力を積極的に取り組みました。また、男女共同参画センター横浜北と共同で、様々な方に開かれた美術を目指し、視覚障害者の方を中心に様々な方が楽しめる美術展などを開催しました。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	106	-	-	8	29	69	-	-	27	-	-	-	-	1	74	4	28,981
H19年度	111	-	1	10	42	58	-	-	28	-	1	-	-	-	77	5	37,903

※事業目的の区分

①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業

④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	施設全体 利用人数
H18年度	347	98,697
H19年度	348	83,302

【旭区民文化センター】

指定管理者制度2年目となった19年度は、前年度同様に「文化は市民自身が作り出すもの」を施設運営の基本理念とし、区民が芸術・文化を通じて主体的に地域生活を豊かにしていくための活動拠点となるべく、区民との協働を更に推し進めることができました。

平成18年度に発足した区民企画委員会とアーティストデータバンク事業では、区民企画委員と地域のアーティストが力を合わせて脚本作りや振付けなどに挑み、ピアノ連弾と朗読・バレエによる「白鳥の湖」公演を成功させました。

また、地元ゆかりのアーティスト企画や夏休みのオープンデーでは、幅広いジャンルと年代のアーティストを迎えることができ、来場された多くの観客に紹介することができました。運営面でも区民参加の機会として、地元から公募による運営スタッフを採用し、地域施設の顔として活躍いただいています。

施設利用率は引き続き高い水準を維持していますが、それに甘んじることなく、常に運営面での改善に取り組みました。一例として、施設ホームページに合わせて施設パンフレットを刷新。各室の「利用の手引き」をお客様のご意見やお問い合わせを盛り込んだものに修正するなど、お客様視点での改良に努めました。

管理面では、開館から18年を数え、施設・設備の経年劣化による故障等が増えていますが、日常点検に努め、区役所や施設管理業者との連絡・報告をこまめに行ない、迅速・適切に対処した結果、利用者の活動に支障が出るようなことはありませんでした。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	45	-	10	18	7	10	-	-	13	5	3	-	4	2	8	10	13,040
H19年度	30	-	1	12	11	6	-	-	8	-	3	-	6	2	1	10	20,747

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール利用率(%)		施設全体 利用人数
		ホール	音楽ホール	
H18年度	345	82 (65)	99 (86)	146,165
H19年度	346	83 (61)	97 (86)	147,994

※ホール利用率：日にち単位(時間帯単位)

【磯子区民文化センター】

平成19年度は、杉田劇場を身近な文化の拠点として、区民がより主体的な立場で関わる環境を整え、その活動を支援することに重点を置いて区民協働を推進しました。中心的な活動として継続してきた事業では、「いそご文化資源発掘隊」の参加者が活動記録をホームページのブログにより発信を開始しました。季節の恒例行事となった「杉田劇場夏祭り&冬祭り」も、地域の方と連携することで大勢の方のご来場を頂くなど活動の幅を広げ、着実に成果を上げています。

また、地域との結びつきが深まるに伴って、区企画委員や区民ボランティアが力を発揮する機会が増えてきており、特に開館3周年記念ミュージカル「奇妙奇天烈摩訶不思議 いそごの星のものがたり」や、レジデント事業として実施した写真展「廣瀬始親写真展－昭和30年代横浜への眼差し」においては、こうした杉田劇場を支える地域の力が大きな支えとなりました。

このような活動は劇場の外にも広がっており、杉田小学校職業体験、洋光台地域づくり、「杉劇@助っ人隊」などのユニークな活動を新たに生むことになり、地域、区民と杉田劇場との関係が単一的でなく多面的に強化されつつあるという手ごたえを感じることができました。

このほか特記すべき点として、磯子区制80周年記念事業をはじめとして地域振興における磯子区との連携協力に力を入れ、強固で良好な関係を築けたことや、年度末に実施された外部評価において、これまでの杉田劇場の運営管理の実績に対して高い評価を得たことが挙げられます。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	86	-	8	39	14	25	-	-	42	5	1	1	2	2	5	28	14,064
H19年度	92	-	4	33	14	33	-	8	42	2	-	4	1	-	6	37	12,988

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H18年度	345	76 (60)	85,132
H19年度	346	73 (56)	87,665

※ホール利用率：日にち単位（時間帯単位）

【吉野町市民プラザ】

平成19年度は、「横浜の下町」という地域特性を活かし、地元出身の唸家による伝統芸能公演、子育て世代を対象とした事業、若手アーティスト支援や公演誘致による新規来場者の獲得により地域振興と活性化に取り組みました。

地域在住であり、開館当初から続く桂歌丸の公演は、毎回満席で好評を得ており、ここ数年は若い人たちの来場も増え、昨今の落語ブームが反映されているように感じます。同じく、地域在住の若手アーティストによる薩摩琵琶&箏ワークショップでは、小学生の子どもたちがなかなか触れる機会の少ない楽器演奏を体験する場を提供し、子どもたちにとっても良い経験を提供することができました。

子育て世代を対象とした、神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者によるファミリーコンサート「音楽紙芝居」、劇団ひまわり公演「Baby Love」では、体験コーナーや役者との触れ合いなどもあり、親子で楽しめるプログラムとなりました。前年度までのアンケートの中で「小さな子どもと一緒に楽しめる公演」の希望が多かったことを受け実施したもので、来場者からの好評も得て、今後も様々な形態を模索しつつ継続実施を目指します。

その他共同主催事業での「アコースティックライブ」による新たな施設利用の提案や新規来場者の獲得、地域活力推進事業「ミュージックプラザ」、南区民ボランティアの事業参加など、試験的・実験的な取り組みにおいて収穫の多い1年でもありました。

来年度も、地域の特性を活かし、地域の振興・活性化に寄与し親しまれる事業を展開していきます。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	18	-	1	9	3	5	-	-	9	-	-	1	2	-	3	3	3,884
H19年度	35	-	1	21	8	5	-	-	18	2	-	4	2	-	2	7	4,372

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H18年度	344	98 (69)	66,070
H19年度	345	99 (68)	65,160

※ホール利用率：日にち単位（時間帯単位）

【岩間市民プラザ】

19年度は、主催・共催として年間31本の事業を実施しました。

シリーズで開催している事業については、岩間市民プラザ発の「上原まり瀬戸内源氏を語る」が通算15回目となり、源氏物語の千年紀にあたる2008年1月は新しい試みとして、源氏物語をテーマにした画家 横前氏の作品をホールロビーに展示し、多角的に展開しました。

地域の人々から好評を得ている、クラシック音楽公演「午前の音楽会」は毎回入場率9割以上となりました。20年度に50回を迎えるため、さらに内容の充実を目指します。また、「思い出名画館」は懐かしの名画を楽しんでいただくもので、洋画と邦画各3本を上映し、ほぼ完売でした。

新規観客の開拓を目的とした「中西圭三&SEASONS親子コンサート」は、親子で一緒に楽しんでいただき、「わーくすあきまつり」、「上原まりチャリティ公演」では、特別支援学校関連の方が多く来場するなど、若い世代や地域のお客様に施設をアピールできました。

複合施設の特性を生かしたアウトリーチ事業にも取り組み、地域文化施設としての使命を果たし、社会にも貢献するため、特別養護老人ホームにて演奏会を行いました。入所者は自力で移動できない場合が多いため、出演者が各フロア（2～6F）に出向いて、ふだん生の演奏に触れる機会がない方に、鑑賞の機会を提供し、好評でした。

表1 事業実績

	合計 事業数	事業目的別事業数 ※							ジャンル別事業数							事業 入場者数	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	音楽	演劇	舞踊	古典 芸能	大衆 芸能	映像	美術 工芸		その他
H18年度	36	6	-	3	22	5	-	-	16	7	-	-	2	9	-	2	5,972
H19年度	31	3	-	1	23	4	-	-	15	1	-	-	-	8	-	7	6,485

※事業目的の区分

- ①芸術創造・発信事業 ②芸術家発掘・支援事業 ③市民協働推進事業
④市民アクセス拡大事業(鑑賞系) ⑤市民アクセス拡大事業(体験等) ⑥都市政策的事業 ⑦情報事業

表2 施設運営実績

	開館日数	ホール 利用率(%)	施設全体 利用人数
H18年度	345	94 (65)	67,837
H19年度	346	95 (65)	65,938

※ホール利用率：日にち単位（時間帯単位）